

「ならなぎ」活動報告

報告者： 玉尾 洋一

日時	2025年9月14日（日） 13時～15時	天候	晴れ時々曇り	歴史文化チーム定期活動 於：音声館
案内団体または催事名	仏像鑑賞入門第2回目		人数	大人： 15名

(敬称略)

出席者：義田、玉尾洋、中澤、山口、池田、奥山、北川、寺尾、中谷、米村、木邨、嶋田、豊田、玉尾ひ
上森

実施内容：13時～15時 座学

●仏像鑑賞入門 中澤講師

・救世觀音菩薩立像(法隆寺)

200年以上に渡り封印されていたが、フェロノサのお陰で日の目を観る事が出来た。フェロノサが寺院に拝観を申し込んだ時、僧侶は「この仏に触ると祟りが起こる、と昔から言い伝えられている」という答えが返ってきた。これに意を介せず封印を解いた。布でグルグル巻きにされていて、その布は457mもあった。「祟り」をすごく恐れたのであろうか！

この菩薩は聖徳太子の肖像だという説がある。太子は暗殺されたと仮定すると、「怨念」を封じ込めるためではと思える。

フェロノサに「祟り」はなかったのか？1884年に封印を解いて、亡くなった年は1908年55歳だった。24年も経過してるから祟りはなかったであろう。それよりも彼が来日したのはなんと31歳だったのが驚き！

「祟り」について・・・歴史学者は「太子が生きた飛鳥時代にも奈良時代にも、まだ怨靈信仰はない。飛鳥・奈良時代に無実の罪で殺された者は、蘇我石川麻呂、有間皇子、長屋王のように多数いるが、まったく怨靈化していない。したがって平安時代以前に日本に怨靈信仰がなかったことは確実だ。聖徳太子は天寿をまとうして死んだのである。無実の罪で死に追いやられたのではない。だからこそ怨靈になるなはずがない」と言っている。

仏像について・・・アルカイックスマイル、左右対称、正面觀照性などから止利様式である。觀音像として水瓶を持たず、如意宝珠を持っている。ルーツを探ると中国南朝にある。觀音菩薩で救世という命名はこれしかない。

・百濟觀音（法隆寺）

名前に百濟とついているので、百濟で造像されて日本に渡來したのかと思われるが、実は日本製である。根拠は「アルカイックスマイルを浮かべている、楠木で出来ていて飛鳥時代はほとんど楠木材が使われていた。百濟、中国南北朝では楠木を使った例がない。」飛鳥仏の源流は中国南朝にあるようだが、この仏像にも示唆する表現が見られる。光背を支える柱に「竹」が表現されており、竹の生育地として中国南部が知られている。参照 <https://naranagi.jp/kaihatsu/butsuzou/250914-1.pdf>

・四天王像（法隆寺金堂）

仏像の表現や素材は時代につれて少しずつ変化する。それが顕著に分かるのが、動きのある四天王像だ。多聞天像を観てみると、餓鬼を踏みつけている脚は直立不動であるが、後年に造像されたのは徐々に動きのある姿が表現されている。また四天王像は釈迦三尊像を囲んで、守っているが、四天王像は側面鑑賞性も見られることから、釈迦三尊像より後に造像されたと解釈できる。

・弥勒菩薩半跏思惟像（広隆寺）

像の表現から飛鳥時代造像と推測される。1940年代まで日本製と考えられていたが、材を調べてみると赤松材だと判明した。赤松は日本で扱う習慣はなく、朝鮮半島で多く使われて。韓国国立中央博物館にそっくりの国宝像がある。

日本では大阪の野中寺の菩薩半跏思惟像に「弥勒菩薩」と記された銘文が残っており、菩薩半跏思惟像＝弥勒菩薩という見方が一般的になった。銘文の内容「栢寺智識之等 詣 中宮天皇 大御身勞坐之時 請

願之奉 弥勒御像也 友等人数一百十八 是依六道四生人等 此教可相之也。

訳 『中宮天皇』が病気になられたとき『栢寺』の信徒118人が（心ひとつにして病気回復を）請願し、たてまつた弥勒様の像です

参照 <https://narunagi.jp/kaihatsu/butsuzou/250914-2.pdf>

○第二章 童子風にアレンジしました～白鳳時代～

写実表現の模索、仏像の童子化

仏教美術の世界では「飛鳥時代」の次は「白鳳時代」だが、白鳳時代を否定されている。理由は元号がない、飛鳥時代と白鳳時代では仏教美術に大きな差はない、と言う事だ。しかし奈良国立博物館は「白鳳」を支持している。飛鳥時代、6回にわたり遣唐使が派遣され、その時代は文学史や美術史の時代区分では初唐であり、その影響が濃い。仏像の特徴は角ばった頭部に豊かな頬、平板な上半身。その初唐様式を受け継ぎながら、日本流のアレンジが加えられた。アレンジが目立つのは顔で、子供っぽい表現になっている。

・旧東金堂本尊仏頭（興福寺）

元山田寺の本尊を東金堂に移安した。「上宮聖徳法王帝説」に685年開眼供養されたと記してある。

上瞼が曲線で下瞼が直線、膨らんだ頬、軽く閉じた口。白鳳時代の基準作例。

●次回開発勉強会「仏像鑑賞入門」3回目。P. 78～

日時：10月12日（日）13時～

場所：音声館

以上

(気になった点、引継ぎ事項)